

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成28年度第1回相模原市立図書館協議会				
事務局 (担当課)		相模原市立図書館 電話：042-754-3604(直通)				
開催日時		平成28年7月1日(金曜日)午後2時30分～午後4時30分				
開催場所		相模原市立図書館 2階 中集会室				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	なし				
	事務局	10人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他7人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		<p>1 議 題</p> <p>(1) 平成27年度図書館事業について</p> <p>(2) 図書館事業評価について</p> <p>2 その他</p>				

審 議 経 過

審議に先立ち、平成28年4月1日付けで人事異動があった相模大野図書館の職員
の紹介を行った。その後、議題ごとに事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を
行った。その主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 議 題

(1) 平成27年度図書館事業について

各館1年を通じてよく頑張っている。提案したツイッターが実施されたのは大
変うれしい。

相模大野図書館が実施したビブリオバトルはどのようなイベントか。また、参
加者6人は小学生か。

ビブリオバトルとは、参加者が面白いと思う本を持ち寄り、決められた時間内
で順番に本の紹介をし、意見交換をした後、どの本が一番読みたくなったかを決
めるもの。参加者は小学生である。

読書活動の普及という点で、是非、図書館・学校図書館・学校図書館担当教諭
などと連携をしてみたいイベントである。学校においても図書館においても先々
読書活動に繋がるものだと思われる。

ビブリオバトルは、一般を対象には考えていないのか。

一般の場合は、図書館は高齢者も含めて参加できるように発表する分野を決め
るなど、内容を絞った形で募集するなどの形を考えている。

昨年、図書館から連絡をいただいた「読書活動実践コース」の講習会の中でビ
ブリオバトルの形式に近いものがあり、受講者は非常に楽しくやっていた。ビブ
リオバトルを知ってもらうことにより、参加者は増えると思う。

「ビブリオバトル」という言葉が認知されていないため、今後も広報活動を通
じて周知していきたい。

ビブリオバトルは個人で申し込むものなのか。

個人で申し込んでいただいた。

グループや家族で申し込む方が参加しやすいと思う。

このイベントのチラシを拝見したとき、大人向けのイベントに思えた。今の話
を伺い子ども向けのイベントだと知った。また、チラシの内容から、私はとても
ハードルが高くて参加できないと感じた。

小学生を対象に実施したが、チラシの内容から保護者が子どもに参加させるの
は難しいと思わせてしまった可能性があるかと反省している。

大学では、ビブリオバトルの全国大会も開催されるほどで、本学でもやってみ
ようという話はあるが、読書を楽しんでいる学生は大人しい人が多いのか人が集
まらない。ただし、授業の中でビブリオバトルを取り入れているところもあるた

め、一人ではなくグループを組んで参加してもらう方法もあるのではないか。

シニア層にとって、時間を制限してゲーム感覚で行うビブリオバトルは少しづついていくのは難しいのではないか。むしろ、人によって興味を持つ分野が違うため、同じ興味を持つ人との出会う場所を求めていると思う。

橋本図書館の「相模原歴史探訪」は以前から実施しているのか。外へ出て学習する事業は公民館が実施してきたが、文学散歩のような内容は図書館の事業にはとても向いているのではないか。

歴史に関する講座は、今までも実施してきたが座学のみであった。今回は、橋本公民館を利用されていた地域に詳しい方の協力により、図書館から距離が短いコースを今回の事業で実施した。参加者からは大変好評だったので、引き続き実施していきたい。

子どもを対象にした紙芝居を実施しているが、子どもたちは落ち着いて紙芝居を見ているか。

4月当初は落ち着きが無い子どもも、回を重ねることに聞くことに慣れていく。また、紙芝居の場合は、読み手が読み聞かせるというより演じているため、より紙芝居に引き込まれるようである。

対象は何歳くらいか。また、毎週楽しみに子どもがやってくるのか、それとも偶然来館していた子どもが来るのか。

お話を聞ける子どもはどなたでも参加できる。会が始まる前に館内放送で呼びかけをしているので、定期的に来る子どもよりも、館内放送で集まる子どもの方が多いと思われる。

市立図書館では小学生向けのおはなし会を実施しているが、相模大野図書館では小さい子ども向けのおはなし会のみなのか。若松小学校に朝お話しを読みに行っているが、子どもたちは毎回楽しんでいる。もしチャンスがあれば実施してほしい。

毎年夏休みに「朝のおはなし会」を実施している。9時30分から短い時間ではあるが、一週間で1冊が読み終わる内容で読み聞かせを実施している。

多くの事業を各図書館で行っているが、参加者数だけが評価ではないと思っている。図書館でしかできない事業を行っているので、参加者数が少なくても何年かは継続して行い、事業を広げてもらいたい。

(2) 図書館事業評価について

この評価書は、何を参考に作られているのか。

すでに評価を行っている博物館を参考にしている。

評価書は誰に読んでもらうことを想定にしているのか。影響力のある教育委員長や市長、市議会議員などに積極的に説明する機会を持つべきである。

3年分を評価書として作成し、教育委員会に報告する。また、議会には報告書を提出する。公表もするため、議員には求めに応じ説明をさせていただく。

評価を作成する際に委託事業者の意見も取り入れるのか。

委託事業者の意見をどのように反映させるかは今後検討する。

図書館協議会委員は評価書のどこに意見を述べればよいのか。

図書館協議会委員による外部評価は、全体評価のシートにある「有識者評価」と書いてある欄に意見を書いていただく予定である。

図書館協議会委員から意見を頂くにあたり、全項目についていただくか、委員毎に担当する項目を振り分けて書いていただくかは現在検討中である。

図書館事業評価の具体的なスケジュールは決まっているのか。

平成26・27・28年分を翌年に評価することになっているが、平成26年度についてはすでに終了しているため内部のみの評価になる。平成27年度は利用者のアンケートは実施していないため、内部評価及び外部評価となる図書館協議会委員の評価のみとなり、今年度第3回の協議会までには、内部評価を提示し、図書館協議会委員による外部評価を取りまとめたい。ただし、協議会の開催時間内で外部評価を行っていただくことは難しいため、協議会委員の皆さまには後日評価書を提出していただくことになる。平成28年度の評価は平成29年度に実施する。次回の協議会において、具体的なスケジュールは確定させて説明する予定である。

2 その他

市立図書館では資料3のとおり相模原市立図書館窓口サービスアンケートを実施した。

相模大野図書館では資料4のとおり窓口業務等業務委託事業者の選考を行っている。選考結果については8月8日に公表予定である。

第二次相模原市子ども読書活動推進計画改訂版の概要は資料5のとおりである。改訂版の本編は6月の教育委員会の定例会において報告した。本編が完成し次第送付する。

資料6 - 1 ~ 3のとおり各館より事業報告をする。

以 上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	役 職	氏 名	所 属 等	出欠席
1	会 長	鈴 木 良 雄	専門図書館協議会中央事務局	出 席
2	副 会 長	古 田 政 子	子育て親育ち応援団 with.cfc	出 席
3	委 員	小 野 充	相模原市立中学校長会	出 席
4	”	飯 塚 亮 人	相模原市学校図書館協議会	欠 席
5	”	山 内 靖 弘	相模原市公民館連絡協議会	出 席
6	”	大 橋 千 景	相模原市社会教育委員会議	出 席
7	”	高 柳 眞木子	みらい子育てネットさがみはら 連絡協議会	出 席
8	”	樋 川 直 司	相模女子大学	出 席
9	”	三 宅 潔	公募	出 席
10	”	山 村 園 江	公募	出 席